



つかさ会の皆さま、こんにちは。梅雨明けが待ち遠しい時期ですが、いかがお過ごしでしょうか。昨年からのコロナ禍の影響で糖尿病公開教室を長い間お休みさせていただいておりましたが、7月からは毎月1回の糖尿病公開教室を再開いたします。感染リスク軽減のため、zoom配信によるオンライン教室とさせていただきます。興味がある方はどなたでも無料で参加いただけますし、予約も不要です。今回はzoom配信のみの予定ではありますが、状況が落ち着きましたら対面でも実施できるようにしていきたいと考えております。zoomの視聴方法についての詳細は別紙をご参照ください。多くの方の参加をお待ちしております。さて、今回は、4月から当科に入職した野村先生に「さかえ」の読みどころを紹介させていただきます。

本年度入局しました、野村 奈央と申します。どうぞよろしくお願いいたします。今月号の『さかえ』の特集は『糖尿病とむくみ(P.5)』、特別企画は『GLP-1 受容体作動薬について(P.17)』、『どこでもだれでもサイクルライフ(P.34)』です。

まず『糖尿病とむくみ』についてです。むくみは糖尿病患者さんでなくても身近な悩み事だと思いますが、高血糖はむくみやすさの原因になることが知られています。また、糖尿病の合併症が進行して腎障害に至ると蛋白尿が出るようになり、血液中の蛋白質が少なくなることによってむくみます。心臓の働きが悪い方も、血液の流れが悪くなるのでむくむことが多いです。このように、糖尿病患者さんとむくみは関連が深いことがわかっています。そもそもむくみとはなにか?という疑問から、気を付けた方がいいむくみの特徴、対処法まで紹介されていますので、ぜひ目を通してみてください。

次に「GLP-1 受容体作動薬について」は、我らが岐阜大学医学部糖尿病・内分泌代謝内科学教授の矢部 大介先生が執筆されています。インクレチン関連薬であるGLP-1 受容体作動薬は、日本で初めて承認されたのは2010年と比較的新しい薬ですが、その優れた効果によって糖尿病治療における存在感はとて大きなものになっています。これまではインスリンと同じように注射薬しかありませんでしたが、最近ついに飲み薬が発売されました。内服方法には正確さが求められますが、一つの新しい選択肢と考えられます。GLP-1 受容体作動薬を使ってみたいけど、とにかく注射はいやだ!と思っていた方がいらっしゃいましたら主治医に相談されてみてはよいかもしれません。GLP-1 受容体作動薬以外にも今後さらなる進歩が期待されるインクレチン関連薬についてもお話しされています。

最後に「どこでもだれでもサイクルライフ」では、コロナ禍で運動する機会が減ってしまったという方にもぴったりのサイクリングのすすめが語られています。糖尿病療養にも通じるものがあるというサイクリングの魅力に触れてみてはいかがでしょうか。